BAB IV

KESIMPULAN

Penulis dapat menyimpulkan beberapa keistimewaan dari film Jepang yang berjudul *Madadayo*. Keistimewaan dari film ini antara lain, bahwa balas budi (*shi no on*) yang murid lakukan terhadap Profesor Hyakken, tidak hanya dengan menghargai guru hanya dengan berbagai nyanyian dan gelar kepahlawanan saja, tetapi sebagai murid yang berbudi luhur, menjadikan balas jasa terhadap guru sebagai suatu "obligation" yang harus di penuhi, yang timbul dari kesadaran diri mereka sendiri.

Profesor Hyakken bukan hanya berperan sebagai seorang guru pengajar saja, tetapi juga dianggap sebagai orang tua sendiri bagi muridnya, sehingga tercipta hubungan harmonis antara guru dan murid yang dekat dan akrab, yang merupakan salah satu hubungan yang kuat dalam masyarakat Jepang. Profesor Hyakken sebagai guru, dituntut untuk dapat berperan sebagai fasilitator, motivator dan memberikan inspirasi bagi muridnya, kelak agar nantinya murid menjadi orang sukses, berguna, berkualitas, dan mempunyai kepribadian kuat. Dengan kesuksesan yang diraih murid itu sudah merupakan kebanggaan bagi gurunya.

Murid dalam membalas jasa gurunya dilakukan dengan bermacam-macam bentuk. Diantaranya, menjaga dan menolong Profesor selama sakit, menjaga nama baik Profesor dengan menganggap sebagai orang tua sendiri, menjadi murid yang mempunyai kedisiplinan tinggi semasa sekolah, pengorbanan murid hanya untuk kepentingan Profesor dengan didasari cinta kasih, dan menjalani kebaikan dan penyerahan diri dengan cara melakukan sesuatu perbuatan, yaitu dengan berbuat kebaikan. Semua perbuatan yang dilakukan muridnya, atas dasar *on* terhadap Profesor. *Shi no on* yang dilakukan oleh muridnya dilakukan oleh dua alasan, yaitu pertama karena adanya kedisiplinan sewaktu Profesor masih mengajar atau sebelum pensiun.

Alasan yang kedua, yaitu setelah Profesor pensiun, muridnya tidak dapat melupakan jasa-jasa yang selama ini telah diberikan oleh Profesor.

Bila melihat itu semua, murid memang belum bisa sepenuhnya membalas jasa seorang guru. Dengan adanya pengajaran atau ilmu pengetahuan yang diberikan oleh guru, berperan penting dan dapat dirasakan manfaatnya oleh muridnya kelak. Oleh karena itu, murid harus senantiasa mengingat jasa-jasa guru selama ini, tanpa adanya pamrih yang mengharuskan muridnya membalas jasa-jasa guru. Maka dari itulah, muridnya wajib menghargai jasa guru bahkan wajib membalas semua kebaikan guru yang selama ini telah diberikannya. Meskipun Profesor tidak pernah meminta balas jasa apalagi meminta imbalan materi dari muridnya, namun muridnya merasa bahwa itu merupakan suatu "obligation" (kewajiban) bagi muridnya untuk sebisa mungkin membalas jasa semua kebaikan hati Profesor.

黒沢明の映画「まだだよ」における師に対する弟子の恩返し

（教育社会学による分析）

デヴィナ　ムリカサリ

9942050

マラナタキリスト教大学

文学部日本文学科

バンドン

2007

黒沢明の映画「まだだよ」における師に対する弟子の恩返し
(教育社会学による分析)

序論

FG.ロビンスによれば、教育社会学とは社会的プロセスと教育そのもののプロセスの全ての関連性を研究する学門であるという。取り扱う主な問題は教育界における社会的な側面である。教育界は教育者と学習者、教育者と教育者の社会的な交際の場になっているからである。教師は教育界において主体となっているため、教育の成果に関して大きな役割を果たしているのである。その成果は、学習者は言うまでもなく、社会全体に利益をもたらすのである。教育者と学習者の関係は相互的に授受の関であり、調和の取られた関係でなければならないのである。それにより、教習活動において良い社会的交際が実現できる。本論は「まだだよ」という映画において師と弟子の関係がどのようなものであるかを研究分析するものである。

本論

「まだだよ」という映画は東京にある学校で三十年教鞭を取ったひゃっけんうちだという教師の話である。この教師は生徒たちに愛され、尊敬されている。退職しても、生徒たちは、相愛わらず、この先生を恩師であると思っているのである。この映画を見て、筆者はの映画のテーマとして師の恩というものがあるように見受ける。師の恩というのは師から受けた恩を生徒たちが返す義務である。つまり、生徒たちは、師に対して借りがあるということである。その恩をどのように返すかというと、教師に対して従順な態度を示し、尊敬し、忠誠心を持つことによって返すのである。師の恩が生じるのは二つの理由からである。一つ教習において規律があったことと、もう一つは生徒が自分たちの将来に役に立つ知識や重要なことを教えた教師の功績を忘れないからである。師の恩には四つの意味がある。一つは師に対する恩返し、二つは師に対する愛及び師の意のままになること、三つは師を困難は状況から救い出すこと、四つは師の利益のために支援を施すことである。「まだだよ」に見られる師の恩は次のようなものである。

1. 恩返し

先生が病気のときは、生徒たちは次の対話文で見られるようなをことする。

医者　: ああ、みんなさん、心配しないで。先生は心配なさるほどのことありません。一時持病のせいで、起こされて。まあ、するよろしのとってお帰りを、願って、今日はお休みになるほがいいと、思います。
先生　: 大丈夫だよ。なんでもない。なんでもない。
学生　: みんなさん、私たちは先生をさげります。後は、心配いらないで。先生のためにこの、会を、つずけてください。先生、先生、先生……
奥さん : いや、別に、心配ありません。ゆっくりお休みにならば、大丈夫ですよ。

(「まだだよ」: 01: 59 :25-02 : 14 : 08)

2. 師に対する愛及び師の意のままになること

師から受けた恩に対して、生徒たちはその恩に報いるため、師の利益のために、愛と師 に対する従順をもって施す。それは次の対話文から見られる。

先生　: 私は今六十歳完璧を迎え他昔のことを思い出しています。私はその 時「私はこれで、本物の、爺になって」と思った。ところは私は今七十七歳、よしの、子のお祝いで、日を迎えあの、六十歳の、時はまだちんぴら、若造だったんだぞう、気が、付きました。
学生　: では、先生のために、乾杯。おめでとうございます。ええ、七十七歳になられた先生の基準のすくえにに移りたいと思います。
先生　: ありがとう。
学生　: お誕生日おめでとうございます。
先生　: ありがとう。

(「まだだよ」) : 01 : 55 : 47)

3. 師を困難は状況から救い出す

師が困難は状況に立たされたとき、生徒は師を助ける義務がある。生徒の師に対する救いは次の対話文にみられる。

先生　: さっぱりしたいと思いました。このうちでもいろいろ持ち物が増えて。時々B-29 にまた来てもらいたいと考える。戦争が終わった楽なるところか、戦争中ごそうろうが終わって食べ物の配給もまるでなくなって。近頃の生活はこじきん当然だ。
学生　: 実はそのことで今日おくなたんです。先生いつまでもこんなところでは置いて置けない。みんなでどこかでうちを作って先生に送ろう。
先生　: 冗談じゃあない、そんな話は困るよ……

(「まだだよ」) : 00 : 35 : 32)

4. 己を犠牲にして師を助ける

生徒たちは自分を犠牲にして、師の　要を優先する。これは次の対話文に見られる。

学生　: 来年の第一回マアダカイの時には具体的に計画を立てて。
先生　: ナンダイそのマアダカイと言うのは？
学生　: 先生の誕生日の誕生日会の名前ですよ…..

(「まだだよ」) : 00 : 39 : 40)

結論

以上、述べたことから次の結論を引き出すことができる。

- 師に対する恩は先生を英雄的な存在として敬うのでなく、生徒たち自身が品行正しくすることも恩返しになる。
- ひゃっけん先生は単に教師だけでなく、親としても見られるため、師と生徒との関係に調和的なものを生み出すのである。
- 師としてのひゃっけん先生は将来、生徒たちが質があり、役に立ち、成功する者になるよう、動機つけ、インスピレーションを授ける者としての役割を果たすことを求められる。